

図解でわかる

永久保存版

ホッと落ち着く空間がほしい人のための

間取りのルール



rules of the Layout Drawing



はじめに

「ついに我が家もマイホームデビュー！」

家づくり計画を始めたとき、いちばん希望を叶えたいのが「間取り」です。

また同時に、効率よく計画を立て準備をし、知識を蓄えておかないと、家づくりを失敗しかねないのも「間取り」なのです。

これから先、5年・10年・20年と生活を共にする、他の誰のものでもない、あなただけのマイホームです。

間取りにもこだわりを持って、暮らしやすく居心地が良い、オリジナルの家を建てていきたいものです。家族のライフスタイルに合った、間取りの計画方法をこのハンドブックを通して紹介していきます。

間取りの知識をしっかりと身に付け、私たちと共に、あなただけの空間を一緒につくりましょう！



間取りの基礎を知ろう	4
① 間取りの考え方	
間取りの基礎を知ろう	6
② 動線とは	
プランの種類	8
リビング	8
ダイニング・キッチン	9
寝室・子供部屋	10
浴室・洗面 脱衣所・トイレ	11
廊下・階段・玄関	12
収納・車庫	13
間取りの考え方①	14
家族のライフスタイルを知る	
間取りの考え方②	16
ゾーニング	
間取りの考え方③	18

① 間取りの考え方

家づくりの中で楽しみのひとつが、「間取り」を考えること。思い描いていた夢をかたちにするための第一歩です。

希望の間取りを叶えるために、まずは土地と建物の関係を確認しておきましょう。家を建てるための土地はどんな形をしているのか、道路との位置関係はどうなっているのかなども間取りに関係してきます。

たとえば、一見日当たりが良さそうな南側道路の土地は、玄関や車庫などを道路側に配置する必要があるため、せっかくの南向きであっても、設計上リビングに日差しが届きにくくなるといったことも考えられます。もし道路沿いにリビングをつくることができたとしても、植栽やデッキで目隠しが必要になることも。反対に、北側道路であれば、たくさんの部屋を日当りのよい南側に持ってくることもできるのです。また、西側道路、東側道路であっても両側を広くとることができますが、時間帯による採光や日当りの工夫が必要になるでしょう。

人気のある角地では、建ぺい率が1割増になるため、より大きな家を建てるのが可能です。風通しもよく、開放感があるのも角地の特徴。ただし、道路に面している部分が多いので、周りからの視線対策にも気をつけたいものです。

このように、敷地によっても考えられる間取りは変わってきます。家族の希望や動線を考えながら、快適で住みやすい家と一緒につくっていきましょう。



間取りは家族のライフスタイルによって十人十色 ★ ★



Point

まずは、今の家族の暮らしをしっかりと見直して、生活スタイルにぴったりの家をイメージします。間取りによって、家の中で快適に暮らせるかが決まります。